

資料館だより

2024年 秋号

contents

- 春の特別講演会・企画展、館長挨拶 …… 1
- 行事報告、語り部さんのおはなしの会 …… 2
- 夏休みイベント …… 3
- 資料館ニュース、インフォメーション …… 4

春の特別講演会・企画展

令和6年4月29日(月・祝)

資料館では、開館記念日に合わせて4月29日(月・祝)に、春の特別講演会を開催しました。この講演会では、富山県立イタイイタイ病資料館名誉館長の鏡森定信氏に「日本の主な鉱害の対策史を診る」と題し、明治時代、日本各地で見られるようになった鉱物資源の採掘、精錬の過程で生じる環境破壊(鉱害)、その主要な鉱害の概要や対策の歴史について講演いただきました。

イタイイタイ病だけでなく、足尾銅山鉱毒事件などにも触れ、公害問題が多発したことや国の対策が機能しなかったことを話され、約50名の参加者は真剣に耳を傾けていました。



野田館長の挨拶



鏡森名誉館長の講演



質疑応答の場面

また、4月26日(金)～5月6日(月・振休)には、資料館1階展示室通路にて「残された写真から振り返るイタイイタイ病」写真展を開催しました。

ゴールデンウィーク期間中の開催ということもあり、県内外からの来館者は、一枚一枚熱心に写真を眺めていました。

「春の特別企画展」を同時開催

特別講演会参加者の声



「残された写真から振り返るイタイイタイ病」写真展

- ・イタイイタイ病について詳しく知る機会となりました。他の公害病の関係等、日本の歴史的背景と共にある事を知り、勉強になりました。
- ・自分の子供のころの出来事としては、忘れることのできないものであり、いま改めてその経緯を伺ってその事件の重大性を認識しました。県民としては忘れてはいけない病気と考えます。
- ・歴史に出てきた人の人物像や経歴なども紹介されており面白かったです。また、銅山の建設に力を入れた当時の日本の考えも分かりました。最後の田中正造の名も心に響きました。

来館者30万人越え

富山県立イタイイタイ病資料館 館長 野田 八 嗣



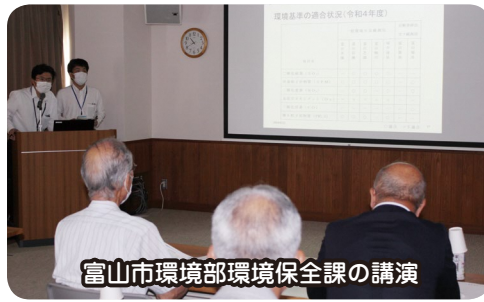
本年8月にイタイイタイ病認定の90代女性の患者さんが1名お亡くなりになりました。痛くて苦しい期間が非常に長かったのではないかと心痛みます。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。イタイイタイ病は、カドミウム(Cd)により腎尿細管が障害され尿からカルシウムやリンが漏出し、骨が柔らかく脆くなる病気です。患者さんは、さまざまな部位に骨折が生じ耐えがたい痛みを苦しむこととなります。1967(昭和42年)年にはじめて患者が認定されて以来現在まで201名認定されていますが、これで生存者はゼロとなりました。しかし、Cdの生物学的半減期は極めて長く、今後とも神通川流域に住む対象となる方々への検診は継続して行く必要があります。Cdによる鉱害は、イタイイタイ病のみならず稲作なども含め地域の営みと暮らしに甚大な被害

を与えました。この事実は、決して風化させてはなりません。当資料館は、イタイイタイ病の貴重な資料や教訓を後世に継承するため、被害者団体と原因企業そして行政の努力と協力の下、2012(平成24年)年4月29日に開館しました。来館者数は、本年8月には30万人を越えました。この間、平成27年には天皇后両陛下、平成28年にはG7環境大臣の皆様にも視察いただきました。コロナ禍で年間1万人程度に激減することもありましたが、本年度は2万人を目指せるような状況となっております。県内はもとより県外からも多数来館され、海外からも昨年度は140名ほど来館されています。

今後とも、より多くの方々に当資料館を訪れてもらい、イタイイタイ病の恐ろしさや克服の歴史を後世に伝えていかなければならないと思っております。

語り部及び解説ボランティア研修会

令和6年6月22日（土）に語り部及び解説ボランティア研修会として、富山市環境部環境保全課主幹の大場晃示氏、主任の川村祐史氏を招いて、一般的な公害の知識及び富山市が行っている公害対策について講演していただきました。参加者から、富山市が行っている水質検査の頻度等についての質問があり、カドミウム、亜鉛、銅、鉛について年4回の測定を行っているなどの回答がなされました。



富山市環境部環境保全課の講演



語り部と解説ボランティア等の皆さん

その後、昨年度実施した「四日市公害と環境未来館」での視察研修をもとに、イタイイタイ病資料館の語り部、解説ボランティアの活性化に向けて意見交換を行いました。展示の入替えや解説ボランティアの募集の在り方、研修のモチ方等の意見が出されました。高齢化する地元のイタイイタイ病関係者の会員の実情を踏まえながら、イタイイタイ病資料館と連携を図り、地域の方々から積極的に当資料館を盛り上げていく方法を模索していくこととなりました。

イタイイタイ病資料館活用研修会



▲小松氏の語り部講話



宮崎校長の指導助言▶



ワークショップで意見交換



◀三原教授の指導助言



水上先生の総括▶

8月23日（金）、イタイイタイ病を教材にした学習の可能性を探り、資料館や副読本を有効に活用するための研修会を開いたところ、県内9小学校から13名の先生方が参加されました。

まず、資料館が提供する学習メニューや副読本等の学習資料を紹介し、展示案内のバーチャル画像等で資料館利用の説明をしました。

次に、語り部の小松雅子氏に語り部講話をしていただきました。その後、富山国際大学の三原茂教授と小矢部市立津沢小学校の宮崎靖校長の指導助言のもと、2つのグループに分かれた先生方は、小松氏の語り部講話から、児童がどのような感想、問いをもつかを予測しながら、資料館や副読本を利用した授業の進め方について意見交換をしました。揺さぶられた児童の心をどのように生かし、主体的な学びへとつなげていけるのかと先生方は、真剣に考えをめぐらせていました。

最後に、元富山国際大学教授の水上義行先生は、「児童がもつ問いは、授業で解決できなくても、生涯にわたって考え続けることで意味をなす」と総括され、イタイイタイ病を題材とする教育の在り方について助言いただきました。

イタイイタイ病 語り部さんのおはなしの会 — サテライト事業 —

令和6年7月4日（木）から8月6日（火）の間、イタイイタイ病資料館サテライト事業としてパネル展示「イタイイタイ病について学び、伝えよう」を富山市立図書館本館5階にて実施しました。県内外から、多くの方がパネルの前で立ち止まり、熱心に見ておられました。東京から来られた方は、「イタイイタイ病については小学生のころ、教科書で少しは知っていましたが、予想以上に悲惨な状況が長く続いていたことを初めて知り、もっと知りたいと思うようになりました。」と感想を話しておられました。

また、その期間中の7月6日（土）に小学校4年生から6年生の親子と中学生を対象に、同館3階セミナールームにて、イタイイタイ病資料館語り部の小松雅子氏にイタイイタイ病の患者であった小松氏のおばあ様のお世話をされた経験や被害者団体であるイタイイタイ病対策協議会の初代会長として患者の救済に携わっておられたお父さんとの経験をお話しされました。参加した15名余りの方は、体験者の生の話を聴き、心を揺さぶられ、うなずきながら涙を流される方も見受けられました。



サテライト事業 パネル展示の様子



おはなしの会での語り部講話



資料館の夏休みイベントを行いました

富山の将来を担う子どもたちがイタイタイ病や環境の大切さについて学びました



イタイタイ病を学ぶ 日帰りバスツアー



神岡鉱業のシックナー前で記念撮影



清流会館での語り部講話

夏休みイベントの一つとして開催した「イタイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー」には、県内外の小学4・5・6年生児童とその保護者6組13名が参加して、イタイタイ病に関係のある場所を巡りながら公害病を克服してきた歴史を学習しました。

資料館に集合した参加者家族は展示解説を聴いてから神岡鉱業に向けて出発しました。神岡鉱業の工場では排水管理センターやシックナー（凝集沈殿装置）、たい積場を見学し、「環境安全最優先」の方針の下に、工場からの排水管理が徹底されているのを見てきました。

午後は、富山市大沢野グラウンド駐車場を出発点とし、牛ヶ首用水上流を回り、カドミウム汚染から復元された地域をバスで巡りました。バスの中で、清流会館の平岡孝進事務局長の説明を聴きながら見学し、安全で良質な米作りのための努力と工夫を学びました。

最後に被害者団体の拠点施設「清流会館」では、イタイタイ病対策協議会の江添良作会長の講話を聴き、病気の実態と患者救済の歩みを教わりました。

猛暑の中でしたが全員が元気に資料館へ戻り、解散式でバスツアーを終えました。

開催日時：7月26日（金）＜8時40分～16時40分＞

見学場所：① 資料館

→ ② 神岡鉱業（排水管理センター、シックナー、和佐保たい積場）

→ ③ 牛ヶ首用水上流 → ④ 清流会館 → ⑤ 資料館

参加者の声

- ・最初のイタイタイ病資料館の見学の解説が良かったです。（小学4年生）
- ・今後、こういうことを起こさせずに、後世に伝えたいです。（小学4年生）
- ・今日はありがとうございました。イタイタイ病の原因から裁判、現在について詳しく知ることができました。子供にとってもいい学びになりました。（30歳代保護者）
- ・ずっと富山県に住んでいますが、イタイタイ病について知らないことがたくさんありました。どこか閉鎖的なところがあり、この様なツアーに参加し、たくさん知ることができて良かったです。（40歳代保護者）
- ・鉱山など普段行くことのできない場所へ訪問でき、親子共々大変勉強になりました。子供も喜んでおり、良かったです。（40歳代保護者）

夏休み自由研究講座 ～イタイタイ病の学習と川の水質調査～

小学4・5・6年生を対象にした「夏休み自由研究講座」には、5組11名の親子が参加しました。ガイダンス映像を視聴した後、資料館スタッフの解説を聴きながら展示室を回りました。神通川流域の農村に病気が発生した時期や要因を教わり、病気に苦しむ患者と家族のようすを再現したジオラマを見学しました。

さらに、地元の萩野医師たちによる病気の原因究明の努力、被害住民たちが団結して裁判勝訴にいたるまでの過程、その後の汚染農地の復元事業や今後も続く発生源対策の取組みについて学習し、イタイタイ病の歴史や環境と健康の大切さに理解を深めました。

後半の「川の水質を調べる実験」では、薬学博士の朴木英治氏に「紫キャベツの色水遊び」と題して、面白実験を演示していただいた後、富山市内に流れるいたち川の上流から下流までの4箇所の水質を調べる実験をそれぞれが実施し、生活排水が川の環境に与える影響を学びました。

初めて扱う簡易測定器に手こずりながらも、参加者は真剣に実験に取り組んでいました。

閉講式では野田館長から参加児童全員に修了証が授与され、自由研究にも役立つ有意義な夏休みの思い出になりました。

開催日時：8月3日（土）＜13時30分から16時30分＞

内容：①イタイタイ病についての学習

②川の水質を調べる実験（講師：薬学博士 朴木英治氏）

参加者の声

- ・内容も分かりやすく丁寧に解説していただいととてもよかったです。（小学6年生）
- ・イタイタイ病のことについて知っていたけど、知らないこともたくさん出てきて楽しかったし、良い経験になりました。川の水質を調べる実験では、自分の住んでいる県で、あまり川を知らなかったから、たくさんことを知れて良かったです。（小学6年生）
- ・イタイタイ病についてとても勉強になりました。実験もおもしろかったです。修了証をもらって喜んでいました。（30歳代保護者）
- ・紫キャベツの実験が、変化も分かりやすくて楽しかったです。私（親）自身は、理科に苦手意識もあり、好きではないので、娘にはそうなってほしくないと思っています。今回の実験も楽しく興味をもっていたようなので良かったです。イタイタイ病に関しても、富山県民にも関わらず、あまりよく分かっていなかったで、私自身も勉強になりました。（30歳代保護者）
- ・子供の要望で来ました。久しぶりにイタイタイ病について学ぶことができました。新しい知識を得ることができ、良い経験になりました。ありがとうございました。（40歳代保護者）



イタイタイ病の説明



朴木講師からの演示実験



全員に修了証の授与

新入社員研修にも利用されています



北日本新聞社の皆さん



三井金属鉱業の皆さん



語り部講話での質問の様子

例年、小学5年生には、社会科の学習として、中学生には総合的な学習や探求の時間として、多くの児童・生徒に利用していただいています。

しかし、それだけでなく、いろいろな方が来館されています。例えば、新入社員研修として北日本新聞社や三井金属鉱業の社員の方にもご利用いただきました。

右のように新鮮な感性の感想をいただきました。

来館者の声

- ・小学生の頃、知識として知っていただけで、どこか遠い昔のことだと思っていました。今日お話しいただいた語り部さんのお母様が今でも腎臓を患われているとのことで、話の中であった「イタイイタイ病は今でも終わっていない」の意味がよく理解できました。（北日本新聞）
- ・当時の人々の声や思いが伝わってきて、心が痛くなりました。次の世代にも同じことが起きないように伝えていかなければならないと改めて感じました。（北日本新聞）
- ・イタイイタイ病は二度と起こしてはならない公害だと思いました。患者がくしゃみをしただけで骨が折れたり、布団1枚の重みも耐えられないと聞き、心が締め付けられる思いでした。原因企業として心持を改め、二度と起こさぬよう取り組みます。（三井金属鉱業）
- ・責任ある企業の新入社員として環境を意識してこその人々の生活であることを改めて認識し、これからの業務に携わりたいと強く思いました。（三井金属鉱業）

資料館インフォメーション

四大公害病の語り部講話を聴く集い ～語り部による伝承会～

四大公害病（水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）の資料館からそれぞれの語り部を招いて、語り部4人の講話をお聴きします。四大公害病の語り部講話を一度に聴講できる貴重な機会です。

日時：10月19日（土） 13：30～16：30

場所：イタイイタイ病資料館 2F 交流学習ルーム

人数：会場参加 50名程度 オンライン聴講可

<参加無料>

これまでの出来事（令和6年度上半期）

令和6年

- 4月26日（金）～5月6日（月・振休） 春の特別企画展
写真展「残された写真から振り返るイタイイタイ病」
- 4月29日（月・祝）春の特別講演会
- 6月22日（土） 語り部及び解説ボランティア研修会
- 7月 6日（土） イタイイタイ病 語り部さんのおはなしの会
- 7月26日（金） イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
- 8月 3日（土） 夏休み自由研究講座
～イタイイタイ病の学習と川の水質調査～
- 8月23日（金） イタイイタイ病資料館活用研修会

これからの行事予定（令和6年度下半期）

10月19日（土） 四大公害病の語り部講話を聴く集い
～語り部による伝承会～

令和7年

2月 中旬 イタイイタイ病を考える県民フォーラム
（講演、学習発表等）



イタイイタイ病資料館で語り部講話を聴講しませんか。

資料館を団体（原則10名以上）で見学される場合は、事前に申し込みいただくと、イタイイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。

詳しくは資料館ホームページをご覧ください。

メールマガジン

【登録者募集中】

資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】

発行/ 富山県立イタイイタイ病資料館

（令和6年9月発行）

〒939-8224 富山県富山市友杉151番地（とやま健康パーク内）

電話▶076-428-0830 FAX▶076-428-0833

ホームページ

イタイイタイ病資料館

検索